

# 平成25年度 体育科教育にかかわる現状と課題

部長 渡 辺 三 郎

## 1 体育科教育の動向

### (1) 授業研究の実際

各郡市小教研では、各地区の体育科課題に基づいた研究主題を設定し、授業研究を通して体育科の目指す授業づくりに取り組んでいる。報告から挙げられた授業研究は以下のとおりであり、様々な運動領域による数多くの授業実践が行われた。

鯖石小：体づくり運動「ダブルダッチ」	桜が丘小：ゲーム「ポートボール」
中能生小：ゲーム「ラケットベースボール」	大淵小：体づくり運動「体力向上大作戦」
妙高高原北小：陸上運動「ハードル走」	曾野木小：ボール運動「ハンドボール」
分水小：器械運動「マット運動」	五十嵐小：器械運動「跳び箱運動」
小針小：体づくり運動「体力パワーアップ」	巻北小：ボール運動「ハンドボール」
大形小：器械運動「鉄棒運動」	山倉小：ゲーム「プレルボール」
中野山小：ボール運動「ハンドボール」	神納東小：ボール運動「ハンドボール」
南中野山小：走・跳の運動「高跳び」	橋田小：器械運動「跳び箱運動」
山潟小：ボール運動「ティーボール」	行谷小：体づくり運動「体力を高めよう」

また、郡市によっては、小・中連携による授業研究（上越市）や、中学校体育教師による出前授業（胎内市）を行うなど、小・中9年間を見通した指導の連続性を大切にした研修が行われている。長岡・三島地区では、大学の准教授による出前授業を通して効果的な指導法を学ぶ研修が行われている。

### (2) 実技講習の実際

上・中越地区では、体育実技講習が活動の中心である。郡市児童の体力課題や授業課題に応じたボール運動、ダンス等の技術講習、トレーニング法（SAQ、コーディネーション）にかかわる講習等、指導力・専門性を高める研修が行われている。

## 2 体育科教育の課題

新潟県の体力テストの結果から体力実態は全国上位にある。反面、日々の授業での子どもの姿から、体力・運動能力にはまだまだ弱さがみられる。また、地域・家庭における子どもの姿から、依然として運動の二極化傾向がみられる状況にある。このような課題に対応するために、各郡市の体育科学習指導研修の成果をさらに多くの教師に広げ、授業力のレベルアップを図ることが望まれる。また、校内研修として体育科を専門としない教師が体育授業を学ぶ機会をつくることも必要である。